

特別報告

地域連携で取り組むハワイ州立図書館の Reading Program

宇田川 栄子 U D A G A W A E i k o

(茅ヶ崎市市民活動登録団体 Shonan Reading Program 代表)

要 約

米国公立図書館においては Reading Program は重要な項目であり、学術的な意味合いとは異なる要素をもつ。全米唯一のステートワイドシステムをもつハワイ州の核であるハワイ州立図書館の研究を中心に学校・大学研究室と共に地域連携で進める公立図書館のリーディング教育について報告する。

キーワード : Reading Program ・ Extensive Reading ・ ESL-Reading ・ 地域連携 ・ 全米ステートワイドシステム

I. 米国公立図書館の背景とハワイ州立図書館

I-1: 全米ステートワイドシステム

日本国内において図書館が「図書館法」とそれに連なる「図書館法施行規則」「図書館施行令」により運営されているのは知られるところであるが、米国においては当初連邦政府からの法規がなく各州に委ねるかたちで運営されていた。

州法において「図書館」の明記があるのは、6州¹に過ぎず、ハワイ州は中でも「全米ステートワイドシステム」という構想を州法において掲げている。以下抜粋したハワイ州憲法第10章第1条がそれにあたる。州立図書館を中心に 51 の分館および学校、専門機関が連携しあうという内容になっており、州法をもとに長期での企画立案²がされている。

Section 1. The State shall provide for the establishment, support and control of a statewide system of public schools free from sectarian control, a state university, public libraries and such other educational institutions as may be deemed desirable, including physical facilities therefor. There shall be no discrimination in public educational institutions because of race, religion, sex or ancestry; nor shall public funds be appropriated for the support or benefit of any sectarian or nonsectarian private educational institution, except that proceeds of special purpose revenue bonds authorized or issued under section 12 of Article VII may be appropriated to finance or assist:

1. Not-for-profit corporations that provide early childhood education and care facilities serving the general public; and

2. Not-for-profit private nonsectarian and sectarian elementary schools, secondary schools, colleges and universities. [Ren and am Const Con 1978 and election Nov 7, 1978; am L 1994, c 280,

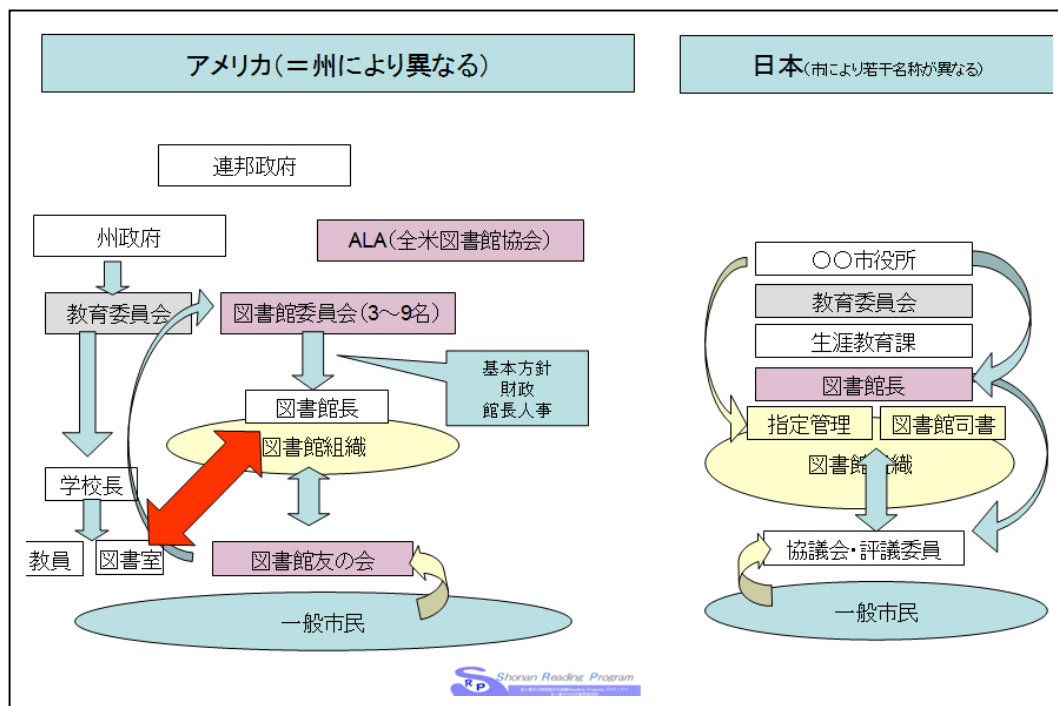
§ 4 (HB 2692-94) and election Nov 8, 1994; am HB 2848 (2002) and election Nov 5, 2002]

¹ ミシガン州・ミズーリ州・モンタナ州・ノースカロライナ州・ロードアイランド州・ハワイ州

² Hawaii State Public Library System LSTA-5Years
(<http://www.ims.gov/pdf/5yrplans/HIplan2012.pdf>)

ハワイ州立図書館について述べる前に、米国図書館と日本国内の図書館の相違について述べておこうと思う。国内においては公立図書館は教育委員会もしくは生涯教育課の中で運営される。しかし米国では図書館は教育委員会とは異なる独立機関として運営され、その運営や財政は「図書館友の会」から選出された「図書館委員会」が決定権をもつ。図書館委員会のメンバーは、ステートライブラリアンの経験を持つ精鋭ライブラリアンであることが多く図書館長は委員会より任命される。国内の場合は図書館長は主に地方公務員で、専門は問わず2年ないし4年従事することが多い。

<図1>日米の図書館組織と運営



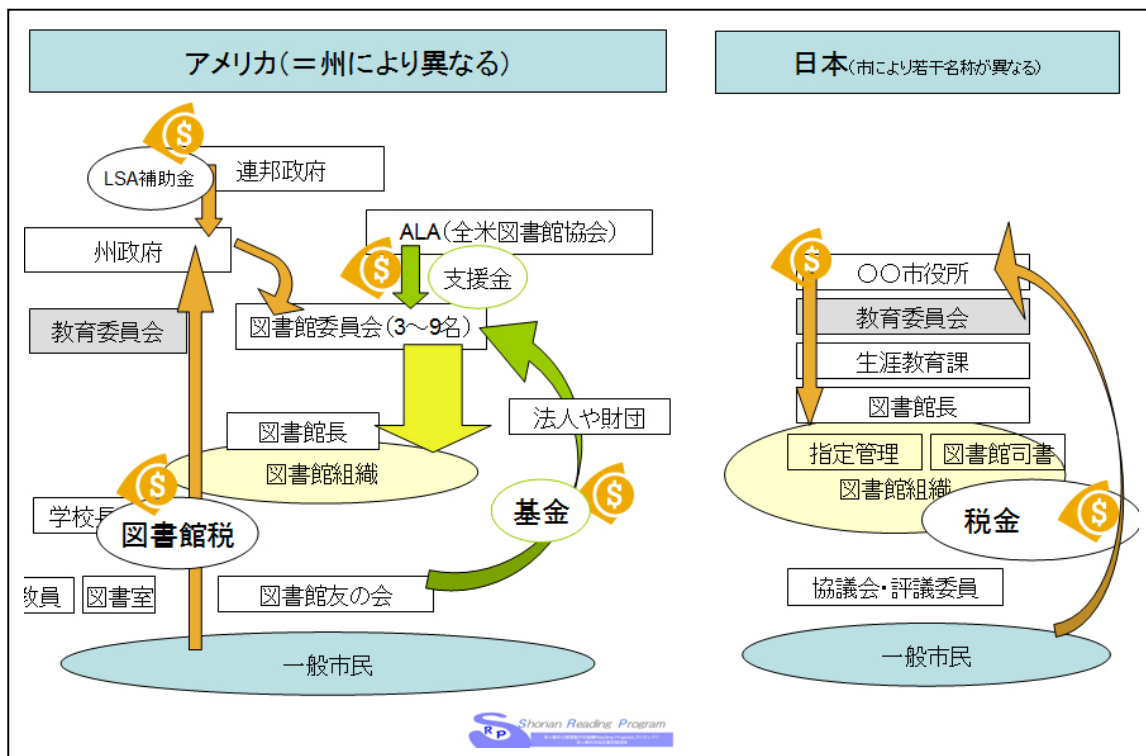
教育委員会と図書館員会の位置づけが異なるので、日本国内と米国における図書館事情は大きく異なるが、中でも学校図書室の位置づけは特に違う部分であろう。学校図書室と公立図書館が連携するというハワイの構想は全米唯一と呼ばれるくらい珍しいようだ。

予算においては国内では各市の予算会議を通し教育委員会から割りふられるかたちとなる。米国の場合は州にもよるが、住民は図書館の不動産価値により「図書館税」が課せられることが多い。更に米国公立図書館の場合は、友の会からの基金が図書館委員会に入る仕組みになっており、この部分が大きく日本と異なる事情といえる。

この基金による運営があるため、図書館ごとの運営状態は一律ではなく、一方で国内の経済状況に左右されやすいのではないかと推測する。1990年代のバブル経済期にマサチューセッツ州では、資料費の圧迫により地域館6館が閉館し、以来連邦政府からの『図書館サービス法(LSA)』強化と、ALA(全米図書館協会)による民営化アウトソーシング方針が

打ち出された。現在みるようなホームページの充実、民間団体によるイベントの実施、Over Drive システム³の導入などが、その路線として続いており、「ストーリータイム」自体も民間団体の手によるものが殆どで、ライブラリアンが行う例は少なくなっている。

<図 2> 日米の図書館予算



I-2: 米国図書館の Reading Program について

Reading Program という言葉は目新しい語句ではないが、米国公立図書館の Reading Program と、日本における「プログラム」の意義、なおかつ学術的な意義とが報告書を見る限り微妙に異なるようだ。広辞苑でひいてみるとプログラムには以下の解説がつく。

プログラム【program】

- ① 目録。番組。予定。計画表。プロ。
- ② 電子計算機において、どのような手順で仕事すべきかを機械が解読できるような特別の形式で指示すること

米国の図書館の「目録」にあたる部分には、一般的に「Book List」と書かれており、一方で夏休みの課題図書のような短期間のものでも大きなねらいがある場合は「Summer Reading Program」と題される。

³ 宇田川栄子 (2010) . 絵本と音源”ハワイ州立図書館の取材から日本の未来を考える”『音のある絵本』東京：コスモピア

たとえば 2009 年度に公立図書館で開催された夏休み企画では次のようになっている。「Summer Reading Program」とタイトルを掲げた州には、ニュージャージー州⁴、ネブラスカ州図書館協会⁵ などがあげられるが、前者ではリーディング指導が例年あり、後者では「Art」を根底とした読書プランから創造性を養うことを目的としていた。一方で「Summer Book List」または「Suggest」「Catalog」として本の題名のみをしおりのように配布したり、WEB 紹介していた図書館⁶もある。

ここで 2006 年度国立国会図書館発行の『米国の図書館事情』⁷に掲載されたヴァーモント州にあるケロッグ・ハッバード図書館⁸からのレポートを見てみよう。

Programming is a strength of Kellogg-Hubbard. For children there are three preschool story times every week, with an average attendance of 60(Parents and children combined.)

この後それぞれのプログラムを簡略紹介しているのだが、冒頭の 1 センテンスには図書館と市民のほかに、もうひとつ「図書館友の会」の存在がある。前述したように米国では図書館によって、それぞれ財政が異なるのだが、この図書館ではヴァーモント州からの予算も、ALA などからの予算もなく基金が図書館の財政を支えている。好評であった移動文庫車が財政難により中止に至ったと報告しつつも自館を維持する資金政策ができています。自立した経済力は「Program」あればこそ、という意味での「Programming is a strength」である。

この図書館に限らず図書館のプログラムはサービスの要素も含み、「財産」と掲げててもよいほどの価値を持っている。予算を左右させる「友の会」からの基金は、その決定の中に「リーディングプログラム」が重要な要素をしめるようだ。

前掲書の中で連邦政府と図書館の掲げる Reading Program の差異について指摘されていたが、こうした実情を加味すると当然のように思われる。では米国公立図書館の Reading Program とは、どんな状態なのであろうか。前掲報告書の各図書館例を拾っていくと、実にさまざまな項目があがる。SLA⁹へと図書館の対応も移行してるように感じる現在、ESL へのリーディングプログラム¹⁰は欠かせないと指摘する図書館委員もいるし、夏の読書週間や生涯教育

⁴ニュージャージー州の夏の 100 冊プラン (Reading 指導つき)
<http://74.125.153.132/search?q=cache:72tQ9sgJHSoJ:2008.njsummerreading.org/kids/resources.php%3Fcat%3Dpicture+Library+Suggest+summer+picturebook+100&cd=5&hl=ja&ct=clnk&gl=jp>

⁵ Nebraska Library Association (<http://www.nebraskalibraries.org/>)

⁶ Ex. サウスカロライナ州立図書館, NY パブリック図書館など

※ 井上靖代氏は前掲書(「アメリカはいま 35 州図書館の公共サービス」で NY 州立図書館の例を「夏のプログラム」としてとりあげておられる。<http://www.nysl.nysed.gov/libdev/summer/>

⁷ 『2006 年度国立国会図書館調査研究報告書-図書館研究シリーズ No.40』

⁸ Greene, Grace. W (2008) The Kellogg-Hubbard Library in Montpelier, Vermont, USA. 前掲書 (pp.240-245)

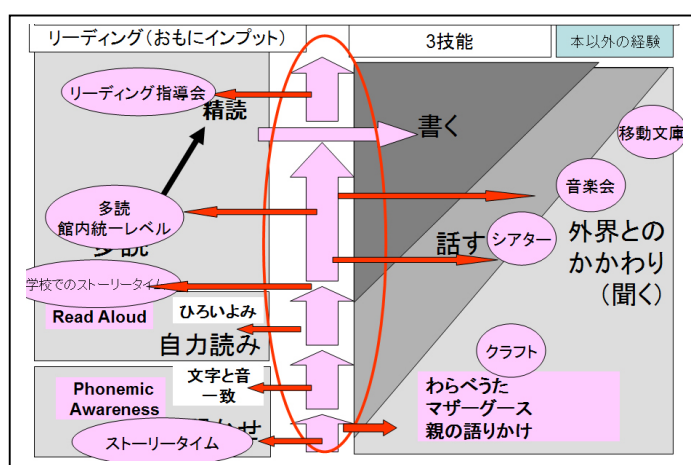
⁹ Second Language Acquisition

¹⁰ Balderrama, Sandra Rios (2008) .Serving multicultural populations by increasing our cross-cultural awareness in libraries”Japan and the USA serving Latin Americans, Brazilians, Lation

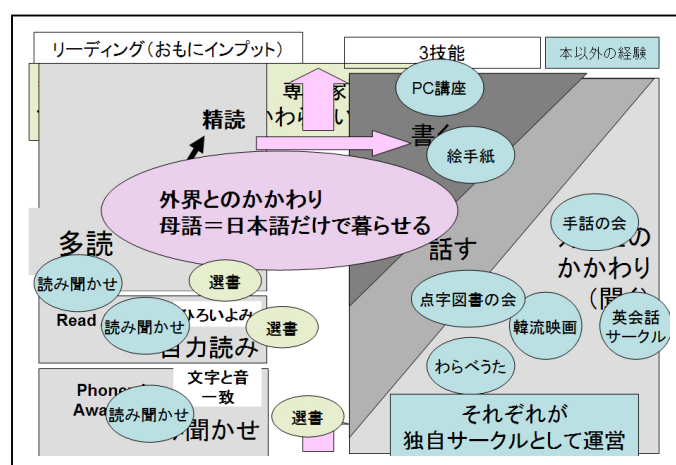
にかかる項目、前述の移動文庫車なども含まれる。それらをまとめてみると、国内の公民館における年間計画のようにも思える。ただ大きく違うのは、生涯教育という観念も「リーディング」という柱からプログラムとして提案されている点ではないかと思う。

これらを総合して「生涯読書ステップ」図の中に落としてみると、以下のようになるであろうか。国内図書館におけるプログラムが、民間団体と職員とに分担されバブル状に読書ステップの中をさまようことに比べ、米国公立図書館ではリーディングプログラムがあるために、ツリー状に一本化された状態となる。

<図3>米国図書館のリーディングプログラムと読書ステップ



<図4>日本国内図書館における生涯教育



図書館という場所であれば0歳児より生涯にわたって長いスパンでのリーディング教育にとり組むことができる。個々人の読書段階やペースに¹¹応じて、向き合うことも可能だ。本の貸借だけでなく、リーディングプログラムがある、というのが米国公立図書館である。

図書館におけるリーディングプログラムが学術サイドと異なる点があるとしたら「地域性」であろうか。生涯スパンで取り組んでいるので、リーディング教育を通して地域力を高めるといふ試みをプログラムに盛り込むことができる。同じ Extensive Reading のプログラムを立てた場合でも、図書館における有用性と英語学のそれとは異なる結果になるのかも

and Hispanics”.米国の図書館事情 2007.『2006年度国立国会図書館調査研究報告書-図書館研究シリーズ No.40』(pp.299-315) アリゾナ州の図書館コンサルタント、サンドラさんより上記言語を母語とする場合の Reading Program と司書の心構えについて述べられている。

Saville-Troike, Muriel (2006). Introducing second Language Acquisition. NY: Cambridge
では、大きく Second Language と Foreign Language にわけ、更に一歩進んで、以下のように記述している。

A library Language is one which functions primarily as a tool for further learning through reading, especially when books or journals in a desired field of study are not commonly published in the learner's native tongue.

¹¹ 吉野 康子 (2003) .英語多読のための理論と指導過程に関する一考察(第1報)"リーディング理論の推移と主体的な読み手"『長野工業高等専門学校紀要 37』(pp.123-128)

読み手の発達段階に応じ、初期段階に耳と口による教授法・直説法とされている点が興味深い。

しれない。

しかし米国においてはこの部分での民営化も進んでおり、また連邦政府から配布されるリーディングプログラムを核にすえる州もある。近年では大学や教育委員会が参入¹²して地域のリーディングプログラムを立てる例も報告されている。本来ならプログラムと所蔵の一致が理想で、地域性を盛り込めるといふよさのある図書館リーディングプログラムであるが、画一化したリーディングプログラムへと変化していくのではないかと危惧している。

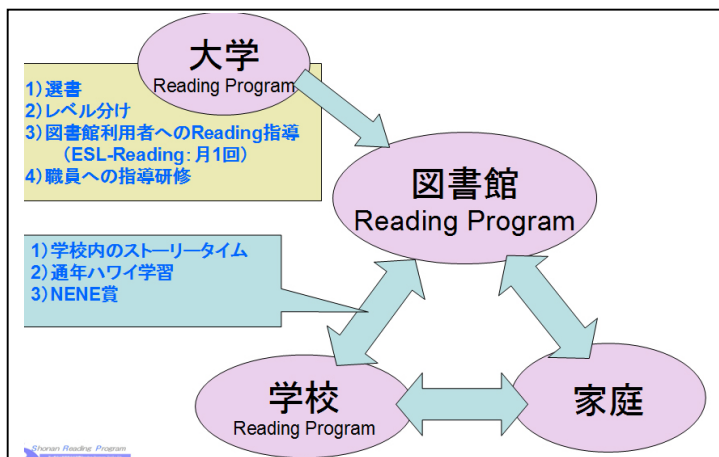
II. ハワイ州立図書館における地域連携リーディングプログラム

II-1: 地域連携で取り組む ESL Reading Program

平成 21 年 10 月にハワイ州立図書館にあてて見学取材を申し込む手紙を出し了解を得、児童館ライブラリアンである Vicky Dwarkin に案内されることとなった。事前調査でハワイ州立図書館のストーリータイムはライブラリアンが行っていると思われたので、ストーリータイムと ESL におけるリーディングプログラムについては特に興味があることも書き添えた。当初は見学取材と考えていたが筆者自身の知る作品が多かったので実演実習をうけつつ、プログラムの意義を教わることができた。

ESL におけるプログラムについては、ハワイ州立大学 ESL-Reading 研究室の指導の下で進めていると説明を受けた。同大学ではレベルドリーディングについては館内統一に直し、図書を選定にも携わり、准教授 Jean Kirsschenman による利用者むけ ESL-Reading 指導会が月に一度行われていると説明された。地域小学校のストーリータイムも指導研修を受けたライブラリアンによって行われている。通年のしらべもの学習や子どもたちの投票により選ぶ「NENE 賞」については図書館と学校が連携していると説明を受けた。図書館を中心にリーディング教育の連携がしっかり組まれている。図示すると以下のようなになるうか。

<図 5> ハワイ州立図書館における地域連携



<写真 1> NENE 賞を募集するコーナー



¹² カルフォルニア大学における事例

ハワイ州の連携は特殊であろうが、「カルフォルニアヤングリーダー賞」¹³なども、古くから学校図書室と公立図書館の連携により、子ども達自身の投票によって決定される。受賞が単なる選定ではなく、図書館におけるリーディング教育の上に成立しているよい例といえよう。

II-2: ハワイ州立図書館における小学校中学年・高学年向けの Reading Program

館内の図書選定に当たっているハワイ州立大学 Jean Kirschenman は、ノンフィクションは ESL にとって重要なリーディング要素だと考えているそうであり、州立図書館内でも所蔵面積の約 2/5 をノンフィクションが占める。米国公立図書館で必ず選定される科学絵本をはじめ、Rookie シリーズも館内で見かけられた。

ノンフィクションの中でも、ハワイ州内小学校の卒業単位になるという「通年ハワイしらべもの学習」は興味深い。1 年を通して郷土ハワイについて各々が調べるのだそうで、小学校在籍中であれば何学年で取り組んでもよいそうだ。州立図書館児童館コーナーにも、中学年程度で取り組めるよう配慮されたコーナーが設置されており、ハワイの言語が確認できるよう音源をつけ、フォークテールなども置いてあった。

小学校中学年頃よりコミック世代と呼んでよいかと思うが、米国公立図書館では現在コミックに対する問題が大きく取り上げられている。配置した棚の上にはライブラリアンの手づくりファイルで書籍への興味をうながすように願いをこめて、作者クイズやおすすめ書籍などのリストを棚上部に陳列してある。

コミック棚の前には Poetry の棚を配置していたが、ライブラリアンからの説明によれば、文字に対する理解が遅い場合コミックを欲する子ども達も多く、Poetry による働きかけは有効な要素だとのことである。音と文字を一致しやすいように Poetry には音源をつけたものが多く見受けられた。

<写真 2>低学年用「ハワイしらべものコーナー」



<写真 3>コミック世代向けのアプローチファイル



¹³ 安藤紀子・高橋朱美（編）（2006）.英語圏の児童文学賞受賞作品とその邦訳第 2 版.安藤紀子.東京

NENE 賞における対象者は、この世代からヤングアダルトであると思われるが、館内の随所に表示があり、それらのタイトルはニューベリー賞にも多く登場するものである。NENE はハワイ特有のグースの一種で、賞のマークにも、それが使われている。地域密着型のこの賞が、どのような世代を育むのか楽しみである。

II-3 : ハワイ州立図書館における幼児～小学校低学年向けの Reading Program

<写真 4>館内統一 Leveled Reading の
コーナー



<写真 5>館内統一 Leveled Reading の
レベル 1～3



レベル別書籍の棚はストーリータイムコーナーの前に位置し、LR を中心としてドッツシールが背表紙に貼付されている。「シンプルセンテンスのやさしい読みもの」を所蔵することは、児童館部分で配慮すべき事柄のひとつであると担当者は述べている。

館内におけるレベル 1 は ICR0、ICR1 を中心にほぼ 1 ページに 3 語～5 語程度から始まり YL0.0-0.8 程度に該当すると思われる。レベル 3 に「Nate the Great」のシリーズが該当していた。また絵本などにおいてもレベルド表示をしている。

さて、幼児～小学校低学年へのリーディング教育の中心となるストーリータイムであるが、フォネミックアウェアネス (Phonemic Awareness 音素認識)¹⁴やリードアラウド(Read Aloud)の考えをふんだんに取り入れたものであり、同じタイトルのものであっても読書段階に応じて使い分けている。

¹⁴ Hiroko Fujita, Fran Stallings(1999). *Stories to Play With: Kids' Tales Told With Puppets, Paper, Toys and Imagination* ほか

<写真 6>Phonemic Awareness を意識したフランネルボード上演例

左 : *The Ghost with One Black Eye* 右 : *Little Red Hen*



*Little Red Hen*¹⁵を題材にするとしても、初期段階にはフランネルボード¹⁶と呼ばれるボードを両手に抱え、子どもたちの視野の中にキャラクターと共に、語り手の口元が入るようにしている。フォネミックアウェアネス（音素認識）においては、音と口元とを一致させることは重要な要素のひとつであり、またこの作業を繰り返しセンテンスの多い題材で行うことは更に効果を生むと思われる。

続くステップとして文字への導入を意識しフィギアを併用することで、子どもたちの視線を口元から外し、耳からの音に注力するよう仕向ける。その後ビッグブック(Big Book)において文字へとつなげていくようである。

ストーリー展開が複雑であるものには、小学校中学年でも「タングラムボード」と呼ばれるものを用いる。数学的な要素も面白いが集中力を一定に保ちながらストーリーに耳を傾けられる。同じ形状に色紙に線を引いたクラフト紙を、ストーリータイムのあとで参加者に配布し、家庭内において親子での時間内に工作や読み聞かせを取り込む効果をねらっている。

<写真 7>マグネット式タングラムボードを使用した上演例（「ブレーメンの音楽隊」）



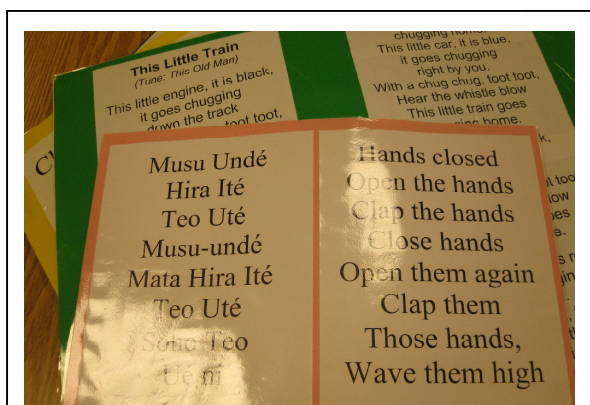
¹⁵ Perez,Idalia Rodriguez (2008). *Phonemic Awareness: A Step by Step Approach for Success in EarlyReading*.

これらのプログラムにおける道具を作成するのは新人ライブラリアンなのだそうで、作成することにより「かたり」の品目を増やしたり、作品への理解や TPO に応じた作成の仕方をスキルアップしていくそうである。

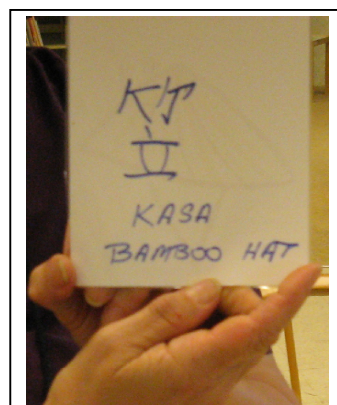
II-4: 文字と音の一致に働きかけるプログラムと多文化理解

文字への導入は気になるところであったが、乳幼児の、つまり最初の段階から「文字の存在」ということについては、常に知らせる、ということであった。乳幼児のクラスに対しては、マザーグースを中心にしたプログラムが組まれており、バイリンガルへの対応も考慮してプログラムを組むそうである。

<写真 8>乳幼児クラスで使用する
マザー・グースの文字カード



<写真 9>幼児クラスで使用する日本
の民話用の文字カード



ハワイにおいては特にアジア系の住民が多いので、リテラシー教育が単なるリーディング教育を超え、多文化理解となる部分もあるようだ。日本の「むすんでひらいて」もローマ字に落とした状態でカード化しあり、「ぶんぶくちやがま」¹⁷や「かさじぞう」¹⁸などもフランクボードで上演したり、漢字カードを作成したりしてあった。

小学校では生徒 1 人を代表者に選び、英語と他言語とでリードアラウドするそうだ。バイリンガル教育という項目の中に、生徒の生きる自信や、それぞれの母語への愛着やプライドというメンタル面でのサポートも考えるという。複数言語での所蔵をしているタイトルは、日本でもおなじみのタイトルであった¹⁹。

聴力部分を個々に鍛えることにより文字へとつなげている部分も興味深い、文字カード

¹⁷ Fujita, Hiroko · Stallings, Fran (1999). *Stories to Play With: Kids' Tales Told With Puppets, Paper, Toys and Imagination*.

¹⁸ Tompert, Ann · Demi (1993). *Bamboo Hat And A Rice Cake: A Tale of Adapted from Japanese Folklore*.

¹⁹ Ex.

Carle, Eric (1991). *The Tiny Seed*. Simon & Schuster Children's Publishing; Min

Carle Eric, & (1997). *The Tiny Seed*. Chinese Edition. Shang Yi Publishing Co ISBN13:978-9579691420

Galdone, Paul (1981). *Three Billy Goats Gruff*. Sandpiper; None

については日本の使用例と大きく異なると感じた。ハワイにおいても文字カードはかなり頻繁に使用しているそうであるが、ポキャブラリーの増強として、一対一対応的な役割として使用するのではない、という点に特徴がある。ストーリータイム参加者の読書段階に応じてカードの利用目的を変化させているようであるが、たとえば「かたり」²⁰をする際のキーワードを表示するのにカードを利用するなど、リーディング（精読）へのガイド的な役割を持たせている。カードは物語の中で語彙を身につけるのに役立ち、なおかつ精読への道しるべともなっている。

Ⅲ. むすびに

ハワイ州立図書館の ESL-Reading 指導をしているハワイ州立大学の担当教授と、ライブラリアンより紹介を受け、わずかながら話すことができた。准教授 Jean Kirschenman は留学生に対する ESL-Reading に関して、OBW²¹,PGR²²,MMR²³を使用していた。日本の SSS についても周知で、とりわけ社会人が試みているということに大きな興味を抱いていた。幼児をはじめ学生であれば授業で継続することが可能であるが、社会人である場合は自発性がなければ継続が難しいこと、また同様な ESL という環境においても、アジア諸国に比べ、日本の場合は圧倒的に母国語における情報量の比率が大きいと分析していた。印象に残るのはライブラリアンと Kirschenman の信頼関係で、研究者とライブラリアンの互いの専門分野に対する尊敬は、初めて訪れた私にも伝わり心地よいものであった。

米国の事情でひとつだけ残念な事情は経済の状況のみならず、先の Overdrive システムの導入によりライブラリアンが解雇されるような例が増えている点である²⁴。

わずかな時間ながら実習を受けたハワイ州立図書館でも、経済的な状況から休館日を週 1 日増やすとのことであった。解雇よりもワークシェアリングの道を選んだハワイは素晴らしいといえようが、非来館型図書館²⁵をうながす、このシステムには、当然そうした問題が付きまとうであろう。一時期、ライブラリアンの質を問われていたが²⁶、今後どのようなのか、祈るような気持ちである。

²⁰Ex. Lucille N. Breneman, Bren Breneman(1983). 『Once upon a Time: A Storytelling Handbook』

²¹ OBW=Oxford Bookworms Library

²² PGR=Penguin Readers

²³ MMR=Macmillan Readers

²⁴ 石松久幸 (2009) 今、アメリカの大学でライブラリアンと呼ばれる職業が絶滅しつつある--デジタル化がもたらしたもの? 『出版ニュース 2009年9月下旬号(2187)』 (pp.6~10)

²⁵ 図書館問題研究会 (編) (2009). 特集”ホームページ&そこから広がる非来館型サービス” 『みんなの図書館 9月号 389』では、国内図書館(専門機関含む)における OPAC や HP の普及にともなう現状について特集している。

²⁶ 井上靖代(2009)37 州図書館の司書認定制度 『みんなの図書館 9月号<389>』 (pp.54-61)

アメリカにおけるライブラリアンの認定資格および授業内容について、現状の変化に言及している。

【参考資料および文献】

1：図書館についての法令・法規

図書館法（昭和二十五年四月三十日法律第百十八号）

http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxselect.cgi?IDX_OPT=2&H_NAME=&H_NAME_YOMI=%82%c6&H_NO_GENGO=H&H_NO_YEAR=&H_NO_TYPE=2&H_NO_NO=&H_FILE_NAME=S25HO118&H_RYAKU=1&H_CTG=1&H_YOMI_GUN=1&H_CTG_GUN=1

図書館法施行規則（昭和二十五年九月六日文部省令第二十七号）

http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxselect.cgi?IDX_OPT=2&H_NAME=&H_NAME_YOMI=%82%c6&H_NO_GENGO=H&H_NO_YEAR=&H_NO_TYPE=2&H_NO_NO=&H_FILE_NAME=S25F03501000027&H_RYAKU=1&H_CTG=1&H_YOMI_GUN=1&H_CTG_GUN=1

図書館法施行令（昭和三十四年四月三十日政令第百五十八号）

http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxselect.cgi?IDX_OPT=2&H_NAME=&H_NAME_YOMI=%82%c6&H_NO_GENGO=H&H_NO_YEAR=&H_NO_TYPE=2&H_NO_NO=&H_FILE_NAME=S34SE158&H_RYAKU=1&H_CTG=1&H_YOMI_GUN=1&H_CTG_GUN=1

2：図書館についての資料

井上靖代（2005～）. アメリカの図書館はいま『みんなの図書館 通巻 342～』東京：教育史料出版会

- (2005)10月号<342>1：アメリカの図書館は、いま（pp.52-56）
- (2005)12月号<344>2：モンテソン・センター国際図書館員研修プログラム1（pp.43-50）
- (2006)1月号<345>3：モンテソン・センター国際図書館員研修プログラム2（pp.40-49）
- (2006)2月号<346>4：学校図書館（pp.54-65）
- (2006)3月号<347>5：学校図書館と読書と政策（pp.44-52）
- (2006)4月号<348>6：図書館をめぐる政策 4（pp.46-58）
- (2006)6月号<349>7 ヤングアダルト・サービスは、いま（pp.46-57）
- (2006)7月号<351>8 公共図書館大会@ボストン 7（pp.71-81）
- (2006)8月号<352>9 図書館員研修（pp.50-60）
- (2006)9月号<353>10 アメリカの「図書館戦争」（pp.55-67）
- (2006)10月号<354>11 イリノイ州の図書館ネットワーク（pp.43-53）
- (2006)11月号<356>12 番外編（pp.45-61）
- (2007)1月号<357>13 番外編：パリの図書館は、いま。（pp.61-69）
- (2007)3月号<359>14 州立図書館の役割（pp.60-73）
- (2007)5月号<361>15 アメリカの会員制図書館（pp.58-71）
- (2007)8月号<364>16 ヤングアダルト・サービスふたたび。まんがとYAサービス@USA(pp.42-52)
- (2007)9月号<365>17 いまは、むかし。戦争と図書館（pp.64-72）
- (2007)10月号<366>18 ヤングアダルト・サービスふたたび。（その2）夏休みの読書とYAサービス@USA”(pp.53-59)
- (2007)12月号<368>19 番外編：南アフリカの図書館は、いま。（pp.61-68）
- (2008)1月号<369>20 ヤングアダルト・サービスふたたび。（その3）読書とリテラシー（pp.40-46）
- (2008)2月号<370>21 図書館サポート職教育のいま（pp.49-58）
- (2008)3月号<371>22 図書館と図書館員の活動団体（pp.47-58）
- (2008)4月号<372>23 フィラデルフィアは図書館日和（pp.62-70）
- (2008)5月号<373>24 企業内図書館は、いま。（pp.39-48）
- (2008)6月号<374>25 公共図書館部会大会@ミネアポリス報告（pp.62-70）
- (2008)8月号<376>26 アメリカの大学図書館は、いま(その1)（pp.45-53）
- (2008)9月号<377>27 アメリカの大学図書館は、いま(その2)（pp.46-50）
- (2008)10月号<378>28 番外編 IFLA大会@ケベック報告（pp.50-58）
- (2008)12月号<379>29 番外編 カナダの図書館は、いま。（pp.43-50）
- (2009)1月号<381>30 変わりつつあるイギリスの公共図書館（1）（pp.29-36）
- (2009)2月号<382>31 変わりつつあるイギリスの公共図書館（2）（pp.55-63）
- (2009)3月号<383>32 変わりつつあるイギリスの公共図書館（3）YAサービス（pp.69-76）
- (2009)4月号<384>33 経済恐慌と図書館（pp.60-65）
- (2009)5月号<385>34 図書館財団（pp.67-73）
- (2009)6月号<386>35 州図書館による公共図書館へのサービス（pp.44-50）

- (2009)7月号<388>36 州図書館の児童サービス (pp.40-47)
(2009)9月号<389>37 州図書館の司書認定制度 (pp.54-61)
(2009)10月号<340>38 州図書館と学校図書館メディアセンター (pp.49-58)

- 石松久幸 (2009) 今、アメリカの大学でライブラリアンと呼ばれる職業が絶滅しつつある--デジタル化がもたらしたもの? 『出版ニュース 2009年9月下旬号(2187)』 (pp.6~10)
宇佐美孝・荒木晶子(2000).金沢市立図書館における古文書,AV及び外国語資料の整理状況『全国公共図書館研究集会報告書 2000年度』(pp.15-17)
大野恭子 (1993) . 外国語資料の収集とサービスをすすめるなかで5年目を迎えた厚木市立中央図書館国際資料コーナー”待ったなしの「国際化」に図書館はどうこたえるか”『みんなの図書館』(190) (pp. 17-22)
迫田けいこ・林昌夫(1989). 公共図書館と外国語資料”国際化への視座—都立中央図書館の中国語・朝鮮語資料の経験からの提言『東京都立中央図書館研究紀要(8)』 (pp.63-101) 東京都立中央図書館
国立国会図書館 (2006) . 蔵書評価に関する調査研究『図書館調査研究レポート No.7』東京: 日本図書館協会
国立国会図書館関西館協課 (編) (2008) .米国の図書館事情 2007.『2006年度国立国会図書館調査研究報告書-図書館研究シリーズ No.40』京都: 国立国会図書館関西館協課
高橋重臣(1979)"外国語資料の収集と選択--外国の場合(図書の収集と選択<特集>)'『図書館界』The Library world 31(1) (pp.p121~126) 日本図書館研究会
日本図書館協会多文化サービス研究委員会 (1995年4月) 「多文化サービス入門 (JLA 図書館実践シリーズ(2))」 (日本図書館協会)
日本図書館協会多文化サービス研究委員会 (1995年4月) 「多文化サービス入門 (JLA 図書館実践シリーズ(2))」東京: (社) 日本図書館協会
堀口佳代子 (1997) . 立川市立中央図書館における外国語資料の収集『図書館研究 三多摩第2号』 (pp.64-74)

3: 英語多読および英語理論全般

<A-Z>

- Fitzpatrick,Jo (1997) . Phonemic Awareness”Playing with sound to strengthen beginning reading skills”Creative Teaching Press.
Rodriguez Perez,Idalia (2008). *Phonemic Awareness: A Step by Step Approach for Success in Early Reading*
Saville-Troike,Muriel (2006).*Introducing second Language Acquisition*.NY:Cambridge

<あ行>

- 宇田川栄子 (2010) . 絵本と音源”ハワイ州立図書館の取材から日本の未来を考える”『音のある絵本』東京: コスモピア

<か行>

- 神田 みなみ・酒井邦秀 (編著) (2005) 『教室で読む英語 100万語—多読授業のすすめ』東京: 大修館書店

<た行>

- 高瀬 敦子 (2008) . SSR for Reluctant Learners to Read『近畿大学英語研究会紀要』(2) (pp.19-36)
竹村 雅史(2005). 函館高専に於ける英語多読指導の試み: 中間報告『函館工業高等専門学校紀要(41)』 (pp.113-117)

<な行>

- 西澤 一 (2007) . 図書館の教育支援、地域貢献--豊田高専の英語多読を通して『東海地区大学図書館協議会誌』52 (pp.61~64)
西澤一・吉岡貴芳・伊藤和晃 (2008) . 英語多読を通じた図書館の授業支援と地域貢献『高専教育 31』 (pp.809-814)
日本多読学会 (2007). 『日本多読学会紀要 第1巻』
日本多読学会 (2008). 『日本多読学会紀要 第2巻』
日本多読学会 (2009). 『日本多読学会紀要 第3巻』

<ま行>

黛 道子・神田 みなみ・畑中 貴美 (2006) . 易しい教材の効果的な使用法を実践の中で考察する：3 大学における英語多読授業を通して『医療看護研究』2(1) (pp.116-123)

黛 道子 (2005) .英語多読授業の導入と成果” 短期大学における 2 年間の実践より” 『順天堂大学医療看護学部 医療看護研究 1(1)』 (pp.22-28) 順天堂大学

<や行>

吉岡貴芳 (2008) . 学校を超えて英語多読授業を支援する Web 読書記録手帳と児童図書推薦システムの開発『多読・多

聴授業研究会資料 H20 年度教育 GP 選定取組』 (pp.42-45)

吉野 康子 (2003) .英語多読のための理論と指導過程に関する一考察(第 1 報)"リーディング理論の推移と主体的な読み手"『長野工業高等専門学校紀要 37』 (pp.123-128)

吉野 康子 (2003) .英語多読のための理論と指導過程に関する一考察(第 2 報)：高専生の学習意欲の育成を求めて『長野工業高等専門学校紀要 37』 (pp.129-138)

吉野康子 (2004) .高専生の英語多読指導実践”高専生の学習意欲の育成を求めて”『長野工業孤島専門学校紀要 38』 (pp.141-148)

<ら行>

リーバーすみ子 (2008) . 『アメリカの小学校ではこうやって英語を教えている”英語が話せない子どものための英語習得プログラムライミング編”』東京：(株)径書房

4：ストーリータイム&絵本および海外児童文学

(1) ストーリタイム&海外児童文学論

Jacobs,Joseph.(2008). English Fairy Tales “Collected by Joseph Jacobs” Seven Treasures Publications.

Hiroko Fujita,Fran Stallings(1999). *Stories to Play With: Kids' Tales Told With Puppets, Paper, Toys and Imagination*』

Smith,L.H. (著)・石井桃子・瀬田貞二・渡辺茂男 (訳) (1964) . 『児童文学論』東京：岩波書店

Townsend,J.R.(1997). Written For Children ”An Outline English-Language Children's Literature” (Sixth Edition)

Trelease,Jim (1985). *The Read-Aloud Handbook*. Penguin books.US

安藤紀子・高橋朱美(編) (2006) 『英語圏の児童文学賞受賞作品とその邦訳』 (第 2 版)

汐崎順子 (1999) .コルデコット賞の変換とその背景：アメリカの児童図書館員による賞 Library and Information Science 42 (pp.1-21) 慶應義塾大学

中西敏夫編 (2000) 『児童文学者人名事典～外国人作家編』：出版文化研究会

日本イギリス児童文学学会編 (2001) 『英米児童文学ガイド～作品と理論』：研究者出版

日本児童文学者協会編 (1995) 『児童文学の魅力～いま読む 100 冊・海外編』：文溪堂

(2) Picture Books

Brown,Margaret.W.&Hurd, Clement (2007) *Goodnight Moon*. HarperFestival; Pap/Co

Carle,Eric (1991). *The Tiny Seed*. Simon & Schuster Children's Publishing; Min

Carle Eric, (1997). *The Tiny Seed*. Chinese Edition. Shang Yi Publishing Co ISBN13:978-9579691420

Coerr,Eleanor (1993) .*Sadako*. Putnam Juvenile

GaldonPaul.(1985).*The Little Red Hen*. Sandpiper; Reprint

Galdone,Paul (1981).*Three Billy Goats Gruff*. Sandpiper; None

Larochelle,David&Egielski,Richard (2007). *The End of Arthur a Levine*

Martin,Bill.,&Carle,Eric (1984) *Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?*. Hamish Hamilton Ltd.

Micklethwait,Lucy (2007).. *I Spy Colors in Art*. Greenwillow Books

Mochizuki,Ken.,&Lee,Dom(1995). *Baseball Saved Us*. Lee & Low Books; Reprint

Rodgers, Frank (2008). *Mr. Croc Rocks* (Read-It! Chapter Books) : Picture Window Books

Rosenthal,Amy Krouse&Lichtenheld,Tom (2007). *The OK Book*. HarperCollins

Rumford,James (2008). *Silent Music: A Story of Baghdad*. Roaring Book

Shulevitz,Uri (2008). *How I Learned Geography*. Farrar Straus & Giroux (J

Tompert,Ann・Demi(1993). *Banboo Hat And A Rice Cake:A Tale of Adapted from Japanese Folklore*

Thompson, Lauren (2007). *The Apple Pie That Papa Baked*. Simon & Schuster Children's Publishing
Wells, Rosemary (2001). *Yoko's Paper Cranes*. Hyperion Book CH